

キツネにだまされたじいさま

むかし、むかし、あつただど。

今日も仙蔵せんぞうじいさまは、町さ大根だの、ねぎだの天秤棒てんびんぼうでかづいで売りにいつただど。

いつものとおり売り終わつと、川向かわむかいの店でいつものように、もつきり飲注¹むんだど。

その日も、一杯が二杯になつて、ばあさまの土産みやげにニシン一束ひとたば買っただど。

そうして、ほろよい気分で帰つてきただど。

秋の日は、つるべおとしつていつて、あつという間に暗くなつてしまうだ。

急いで大川渡つて川崎かわさきの裏うらを通つて、ハンの木が四、五本生えて、ススキが茂しげつて淋さびしい
タカハシの近くまで来ると、若い姉様あねさまがじいさまの先になつたり、後になつたりしてつい

て来んだど。

じいさまは、